

# 古墳ミステリー新聞

7D 井17  
大津里穂

綿貫觀音山  
古墳  
後田の墳  
6世紀後  
前方後  
全長: 97m  
幅: 64m  
高さ: 3m

## 綿貫觀音山古墳 石室になせ「モモの種」

古代の人々は桃をどのように扱っていたのか

「古墳に桃の種?」群馬県立歴史博物館の国宝展示室で、土師器の説明文を読んだ私は、驚いた。古墳の石室から、土器と一緒に桃の種が見つかったとあったからだ。高崎市にある、綿貫觀音山古墳で五千年前に発見された埴輪や副葬品三七六点が、二〇二〇年に国宝指定された。一四〇〇年前、土器を用いて被葬者へ桃などの飲食物を供えていたとあた。今も仏壇に果物を供える習慣がある。それは古代から続く習慣なの? 桃には何か特別な意味があるのか。その意味をリサーチすることで、古代の生活を想像できたらおもしろいと思った。博物館史料本、インターネットで情報を集め、現在の私たちの生活との関わりも考えたい。



史料① 土師器(はじき)



須恵器(すえき)



事実

史料① 見つかった桃の種



が見つかった。そのほとんどが未成熟で、他に、神や祖先をまつる祭祀(さいし)用と分かれる意図的に粉碎された土器、木製品、獸骨が見つかたため、桃は食料ではなく儀式の供え物と考えられた。古い中国では、桃の実を不老長寿、魔除けのシンボルとして、儀礼に使っていた。

また、ユダヤモモは、スマモの大きさで品種改良前の原種のようだ。史料①によると、一九六八年に綿貫觀音山古墳の横穴式石室から見つかった須恵器・土師器は、棺を置く玄室(げんしつ)に置かれ、同じ部分に桃の種も見つかた。

豪族の墓である古墳からは、生活の身近な道具の土器も多く見つかっている。

### 葬儀に使われた土器と桃

史料①によると、一九六八年に綿貫觀音山古墳の横穴式石室から見つかった須恵器・土師器は、棺を置く玄室(げんしつ)に置かれ、同じ部分に桃の種も見つかた。史料①によると、二〇〇九年に卑弥呼天宮(まこと)遺跡からも、二八〇個もの桃の種(おく)遺跡からも、二八〇個もの桃の種

### 解釈

複数の古墳から、まとまと数の桃の種が見つかっていて、他の儀式用の土器などと共に置かれていたことから、卑弥呼の時代から桃が儀式に使われたと考えられる。それは、どのような思想だろうか。

NHK歴史秘話ヒストリアの本と新聞記事によると、二〇〇九年に卑弥呼天宮

### 結論



古墳や桃の種について調べた結果、古墳が作られた三七世紀の日本

は、中国・朝鮮半島から様々な技術や思想を取り入れて国作りをしていった。古墳、須恵器、横穴式石室、修羅を作る技術、そして、桃の使い方だ。古代の人々は、桃を神聖な貴重品として扱っていた。卑弥呼の時代から、桃を儀式に使い、不老長寿や平和を祈ることで人々をまとめていた可能性も分かった。また、日本の神話や物語に魔除けとして桃が登場している。行事は、今も残っている。桃を果物として楽しむようになった今も、桃のミステリアス

六世紀に、古代の群馬県、上毛野(うみ)がみつけの地域で、横穴式石室が作られるようになった。それまでは、古墳頂上に棺を埋める堅穴式だったが、五世紀に朝鮮半島から横穴式技術が伝わり、上毛野国は、東日本で最も早く作られた。

観音山古墳の石室は、入口通路と玄室があり、全長約十二・六メートル、幅三・九メートル、高さ二・三メートル、天井の巨大石材の重さは六十トン。国内最大級の大きさ。(史料②)

一四〇〇年間、盗掘にあうことのなか、石室内部には、銅水瓶、銅鏡、装身具、武器、武具、馬具、埴輪、土器などの副葬品が、ほぼ当時のまま残っていた。副葬品は時期によって変化して横穴式石室が広がった古墳時代後期に土器が多くなり、儀礼に使った桃の種も置かれた。

### 解釈

古事記で、桃の実は「オオカムズミ」という神名を授けられ、物語にも魔除けとして登場し、種が薬としても使われたことから、奈良・平安の人々も、桃をお守りや薬として、安全や健康に役立てたのだと思う。

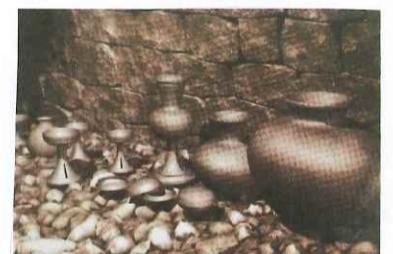
桃の特別な力を信じる思想は、古墳時代以降も受け継がれていた。

### 横穴式石室と副葬品

史料② 横穴式石室



資料② 副葬状態復元 CG



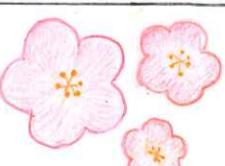
### 解釈

桃の種が置かれるようになつたことから、横穴式石室が導入されから土器やト王權が上毛野国を重視したと分かる。桃の種が置かれたことで、埋葬後も定期的に桃を供えたかもしれないと思われる。横穴式石室が導入されから土器やト王權が上毛野国を重視したと分かる。桃の種が置かれたことで、埋葬後も定期的に桃を供えたかもしれないと思われる。

### 神話や物語の桃

奈良時代に書かれた「古事記」に、イザナギという神が、死者の世界である黄泉から脱出する際、追つてくる魔物に桃を投げつけたという話。平安時代の今

「昔物語集」に、鬼の侵入を防ぐために桃の木を使う話がある。また、平安時代、種の桃仁(とうにん)は、薬として使われた。



### 引用・参考文献リスト

史料① 群馬県立歴史博物館にて撮影、史料② 群馬県ホームページより引用、資料③ 日本経済新聞より引用、資料④ 綿貫觀音山古墳ガイドブックより引用  
NHK「歴史秘話ヒストリア」制作(編)(2014)、NHK歴史秘話ヒストリア第2章 1. 弥生時代～金葉倉時代編  
群馬県立歴史博物館(編)(2020)、綿貫觀音山古墳ガイドブック、群馬県立歴史博物館  
群馬県文化振興課(編)(2020)、東国文化副読本2020、群馬県  
関裕二(2021)、マンガで読み解く真説・古事記・講談社  
武井正子(2009)、日本の遺跡と遺産(2) 古墳、岩山奇書店  
日本経済新聞電子版(2010年9月17日)、奈良・まさ向遺跡で大量の桃の種、https://www.nikkei.com/article/DGXNASHC1701V-Xfcl0A900000/ 2021年7月31日